＜様式 6-5 学校教育活動支援事業成果報告書＞

【活動の主題】　学校図書を活用した学習活動の充実に向けた取り組み

【学校名】東近江市立八日市西小学校

１　本校の概要

東近江市の西部に位置し、周囲は田園に囲まれたのどかな場所に位置している。一昨年度に芝生化した運動場には、朝は小鳥が餌を求めて十数羽訪れ、校庭のビオトープにはメダカなどの水生動物や水生植物がおり多種多様な自然豊な環境がある。全校児童 208 名、全 11 学級の学校である。

２　取り組んだ内容

（1）調べ学習で図書を活用し、学習理解を高める

近年、ICT の活用が進み、タブレット端末を用いた調べ学習が一般的になっている。しかし、図書とじっくり向き合いながら学ぶ時間も、児童にとって依然として大きな意義をもつ。本校では、各学年において、国語、生活、社会、理科、総合的な学習の時間等において図書室の蔵書を活用し、調べ学習を実施した。補助金により購入した図書も積極的に活用し、学習内容の充実を図った。

（2）障害者理解教育推進

本校第４学年は、校区内の特別支援学校と年間２回（１学期・２学期）交流活動を行っている。交流に向けた学習では、障害の種類や特性について理解を深めるとともに、互いにできることや配慮すべき点について、図書資料を活用しながら調査・検討を行った。

児童は、調べた内容をもとに「障害のある方とどのように交流するとよいか」をまとめ、発表を行った。事前学習を通して、障害のある方の困り感や得意なことへの理解を深め、相手に楽しんでもらえる交流内容となるよう工夫することができた。当日の養護学校の児童との交流会では多くの笑顔が見られ、児童にとっても大変貴重な体験となった。

写真：４年生調べ学習の様子

（3）読書離れ防止と読書習慣の定着

読書は語彙力、表現力、想像力を育成する基盤である。本校では、新刊や良書を計画的に整備することで、児童が本の楽しさに触れる機会を増やし、読書への関心や学習意欲の向上につなげることを目指している。また、隔週金曜日の朝学習の時間に、教員が輪番で各学級において読み聞かせを実施している。読み聞かせをきっかけに同一著者の作品や関連書籍へと関心を広げる児童も見られ、本を通した学びの広がりに寄与している。

３　活動の成果

新たに整備した図書を活用することで、最新の情報を収集し、調べ学習の内容をより充実させることができた。従来の資料と比較して新しいデータを基に情報を整理・編集することで、より説得力のある発表が可能となった。また、タブレット端末と図書の双方を効果的に活用し、情報を相互に補完しながらまとめることができる児童の姿が見られたことは大きな成果である。

一方で、読書習慣のさらなる定着が今後の課題である。学校司書との連携を一層強化し、児童が本に触れる機会を増やすとともに、本について発信できる場や環境づくりを進めていきたい。